

第5章 豊かな個性と人間性を育むまち

第1節 生涯にわたって学び続ける社会をつくる

第2節 学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む

第3節 市民の個性ある文化活動と文化を育む

第4節 スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす

第5章 豊かな個性と人間性を育むまち

基本目標	第5章 豊かな個性と人間性を育むまち	市民満足度（章単位）	満足・普通 78.0%	不満 15.6%
政策	第1節 生涯にわたって学び続ける社会をつくる	市民ニーズ（政策）	14/18	
成果	<p>登別ときめき大学や市民マイプラン講座、家庭教育を推進するとともに、婦人の生活文化や教養の向上を図るため、婦人研修の家の維持管理に努めるなど、生涯各期における多様な学習機会を提供し、生涯学習環境の充実を図った。</p> <p>基本目標に対する市民満足度は、「満足・普通」と回答した方の割合が7割を超えていることから、着実な政策展開がなされているものと判断できる。</p>			
施策	I 市民の主体的な学習の推進			
体系図				

【目標】

生涯にわたって学び続ける社会をつくるため、市民の主体的な学習を推進する。

市民満足度（施策単位）	市民ニーズ（章内）
満足・普通	不満
81.3%	15.8%
5/7	

●目標への接近度を計る指標

目標への接近度を計る指標等	単位	基準値H16	実績値H17	実績値H18	実績値H19	実績値H20	実績値H21	実績値H22	実績値H23	実績値H24	実績値H25	実績値H26	実績値H27	目標値H27
指標1 生涯学習人材バンク登録者数	団体	262	262	262	262	262	344	344	343	345	346	236	187	350
指標2 図書館年間貸出冊数	冊	200,487	199,602	213,040	198,843	219,662	241,869	241,184	242,016	236,070	234,993	227,228	239,977	230,000

●目標到達に向けた取組及び成果

生涯各期における多様な学習機会を提供するため、登別ときめき大学や市民マイプラン講座、家庭教育を推進し、婦人の生活文化や教養の向上を図るため、婦人研修の家の維持管理に努めた。また、公民館、市民会館、総合体育館、図書館及び移動図書館の適正な運営に努め、生涯学習環境の充実を図った。

図書館年間貸出冊数については、目標値を達成しているものの、生涯学習人材バンク登録者数については減少傾向にあることから、今後も市民が学習する機会を充実させるよう取り組む。

●まちづくり意識調査からの分析

総体的には「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が、「不満」「やや不満」と回答した方の割合を上回っている。

性別では男女間において大差はなく、年代別ではどの年代でも「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が8割と高いことから、多くの方が概ね満足していると考えられる。

●施策の基本的な方向

1 <生涯学習活動の促進>

●主要な施策

【① ライフステージ（生涯各期）に対応した多様な学習機会の充実】

様々なテーマを学ぶ登別ときめき大学や子育て世代に対応した家庭教育学級の開催により、学習機会の充実を図った。

【市民生涯学習推進講座（登別ときめき大学）】

（平成23年度から）

平成27年度まで 基礎コース参加者数1,808名

<基礎コース> 40講座

<連携コース> 375講座



【② 主体的な生涯学習活動の充実】

生涯学習事業に係る講師料の支援を行うとともに、必要とする学習情報の提供をすることにより、市民の主体的な活動を促進に努めた。

【市民生涯学習推進講座(市民マイプラン講座)】

平成27年度まで 講師料助成216回

※講師情報提供については、問い合わせに対してその都度対応している。



【③ 生涯学習情報の提供と充実】

市内で開催される生涯学習事業を取りまとめ、ホームページ等で情報提供するとともに、内容の充実に努めた。

【主な提供内容】

事業ごとにホームページにて情報を発信しているほか、「登別ときめき大学連携コース」にて市内団体による各種行事も発信している。

なお、平成23年度までは「生涯学習情報」にて情報発信を行っていたが、平成24年度より教育委員会全体の情報誌に集約して情報を発信している。

●施策の基本的な方向

2<生涯学習環境の充実>

●主要な施策

【① 生涯学習の場の確保と充実】

市民が生涯学習を安全・安心に行えるよう施設の必要な補修を行った。

【市民会館等の利用実績】

平成27年度まで

市民会館 812,936人、鷺別公民館 358,332人

登別公民館 18,163人、登別温泉公民館 8,424人

総合体育館570,596人、陸上競技場 89,678人



【② 生涯学習指導者(学習支援者)の育成と確保】

生涯学習活動を行う際の一助となるよう、市内公共施設等に、生涯学習指導者の情報等をまとめた「生涯学習人材バンク」を設置した。登録した方々の学習成果を活かす機会となり、生涯学習指導者の資質の向上が図られた。

【生涯学習人材バンク登録数】

平成27年度 187件



【③ 図書館機能の充実】

図書館ネットワークの広域化により、登別市単独では不可能だった高度な図書館情報システムと各種データを導入した。これにより選書・発注や納品など業務の効率化、利用者の資料検索やメール連絡など利便性が大きく向上した。

【図書館貸出冊数】

平成27年度まで 2,294,882冊



基本目標	第5章 豊かな個性と人間性を育むまち	市民満足度（章単位）	満足・普通 78.0%	不満 15.6%
政策	第2節 学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	市民ニーズ（政策）	8/18	
成果	地域全体で子どもを育てることができる学校づくりを推進するコミュニティスクールを設置するとともに、不登校・いじめ対策やスクールカウンセラーの設置、心の教室相談員の配置を行ったほか、非行などを未然に防止するため、青少年センターによる相談や街頭指導を実施するなど、豊かな人間性の育成を進めた。			
施策	I 子どもたちの生きる力を育む			
体系図	<pre> graph LR I[I 子どもたちの生きる力を育む] --> 1[1 確かな学力の向上] I --> 2[2 豊かな人間性の育成] I --> 3[3 たくましく生きるための健康や体力づくり] 1 --> 1_1[① 基礎・基本の定着] 1 --> 1_2[② 思考力、判断力、表現力、問題解決能力の育成] 1 --> 1_3[③ 学び続ける意欲の醸成] 2 --> 2_1[① 豊かな心を育む教育の充実] 2 --> 2_2[② 生徒指導・不登校対策の充実] 2 --> 2_3[③ 教育相談の充実] 3 --> 3_1[① 健康や体力づくりの推進] 3 --> 3_2[② 食育の推進] 3 --> 3_3[③ 地域との連携] 3 --> 3_4[④ 指導者・指導技術の充実] </pre>			

【目標】

自ら学び、自ら考えるなど「生きる力」の育成に努める。

市民満足度（施策単位）		市民ニーズ（章内）
満足・普通	不満	1/7
78.8%	17.7%	

●目標への接近度を計る指標

目標への接近度を計る指標等	単位	基準値H16	実績値H17	実績値H18	実績値H19	実績値H20	実績値H21	実績値H22	実績値H23	実績値H24	実績値H25	実績値H26	実績値H27	目標値H27
指標1 不登校児童生徒の割合	%	小0.2 中1.6	小0.1 中1.5	小0.2 中2.0	小0.2 中2.0	小0.1 中1.3	小0.2 中1.8	小0.3 中2.2	小0.2 中2.4	小0.2 中2.1	小0.3 中2.2	小0.2 中2.0	小0.1 中1.9	小0.1 中1.1
指標2 不登校児童生徒数の復帰率	%	17.9	20.8	26.5	0.0	0.0	6.9	0.0	0.0	0.0	10.8	0.0	7.6	30.0
指標3 教育実践研究校の指定校	%	64.3	64.3	92.8	107.6	107.6	115.4	138.4	107.6	92.3	100.0	115.4	122.2	84.0

●目標到達に向けた取組及び成果

確かな学力向上のため、校内研修の充実や公開研究会の開催など指導方法の工夫改善や授業の改善を図り、不登校・いじめ対策やスクールカウンセラーの設置、心の教室相談員の配置など豊かな人間性の育成に努めた。また、児童の健康診断やフッ化物洗口による虫歯予防、中学校体育連盟に対する助成による体育振興などにより児童の健康や体力づくりを図り、児童の「生きる力」の育成に努めた。
教育実践研究校の指定校の割合は目標値を達成しているものの、不登校児童生徒の割合やその復帰率については、目標値に未達であることから、教育相談の実施など、不登校児童対策にさらに取り組む。

●まちづくり意識調査からの分析

総体的には「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が、「不満」「やや不満」と回答した方の割合を上回っている。
性別では男性のほうが女性に比べ「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が高く、年代別ではどの年代でも「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が約7~8割と高くなっており、多くの方が概ね満足していると考えられる。

●施策の基本的な方向

1 <確かな学力の向上>

●主要な施策

【① 基礎・基本の定着】

「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した教育課程を編成するほか、指導方法の工夫・改善をすることによって効果的な学力の定着を図った。

【工夫、改善の例】

授業の中に習熟問題に取り組む時間を位置付け、定着を図る
1時間の思考の流れがわかる板書づくりとノート指導
個に応じた指導の充実と習熟度別指導の導入

【② 思考力、判断力、表現力、問題解決能力の育成】

校内研修で効果的な授業力を身に着けることで、児童生徒の学力を高めるほか、総合的な学習では自ら考え行動することによって、問題解決能力の育成を図った。

【総合的な学習の時間実践例】

- ・環境：身近な自然や施設等に関わる探究活動、体験活動
- ・地域：北海道の文化や歴史、産業等に関わる探究活動
- ・福祉：地域の福祉施設や設備等に関わる探究活動、ボランティア活動
- ・職業：キャリア教育、職業体験

【③ 学び続ける意欲の醸成】

保護者・地域と連携することにより児童生徒の豊かな心・学習意欲を高めたほか、道徳学習では、学ぶことの価値を内面から培うことによって、素直な気持ちで学習に取り組むことが出来るよう工夫した。

【主な取組】

地域の教育資源(人、もの、こと)を活用した体験的な学習の充実
児童生徒の身近な話題を授業化することで、道徳的価値を高める工夫

●施策の基本的な方向

2 <豊かな人間性の育成>

●主要な施策

【① 豊かな心を育む教育の充実】

読書活動の推進や道徳授業の改善、各学校での創意工夫をこらした魅力ある教育活動を推進することにより、児童生徒の心の成長の促進を図った。

【道徳の授業改善事業】

年間指導時数(週35時間) 全学校100%達成
心のノート活用率100%(全小中学校)

【② 生徒指導・不登校対策の充実】

関連事業の連携実施により、これまで各学校が課題としていた関係機関との連絡調整等について、効果的な支援を行った。

【不登校から復帰した生徒の数】

平成27年度まで 9人

【③ 教育相談の充実】

児童生徒が抱える問題が多様化・複雑化する中で、不登校やいじめ等に早期かつ適切に対応するとともに、これらの問題を未然に防止し、児童生徒が心にゆとりを持ちストレスをためることのない環境をつくるため、専門家等を学校へ配置し、相談体制の充実を図った。

【スクールカウンセラー相談件数】

平成27年度まで 2,914件

【心の教室相談件数、来室者数】

平成27年度まで 相談 1,100件 来室 22,368人

●施策の基本的な方向

3 <たくましく生きるための健康や体力づくり>

●主要な施策

【① 健康や体力づくりの推進】

健康診断やフッ化物洗口の実施により児童生徒の健康状態の把握や向上に努めたほか、中学校体育連盟への助成により、生徒の体育振興や生徒間交流の推進を図るなど、児童生徒の健康や体力づくりの推進を図った。

【児童生徒健康診断等経費(フッ素洗口による効果)】

小学6年生と中学1年生の1人あたりの平均永久歯虫歯数
平成17年度 2.27本 平成24年度 1.21本 平成27年度
0.99本

【② 食育の推進】

栄養教諭による食育指導を行い、児童生徒の健全な食生活の実践に努めるほか、健康診断やフッ化物洗口の実施により、児童生徒の健康保持及び増進、う歯の予防に努めた。

【食育指導件数】

- ・平成27年度 10件
- ・平成26年度 9件
- ・平成25年度 8件

【③ 地域との連携】

栄養教諭による食育指導を行い、児童生徒の健全な食生活の実践に努めたほか、市内病院等から学校医等を委嘱し、児童・生徒の健康保持及び保健教育の振興に貢献した者を表彰した。

【学校医等表彰】

平成27年度まで 39人

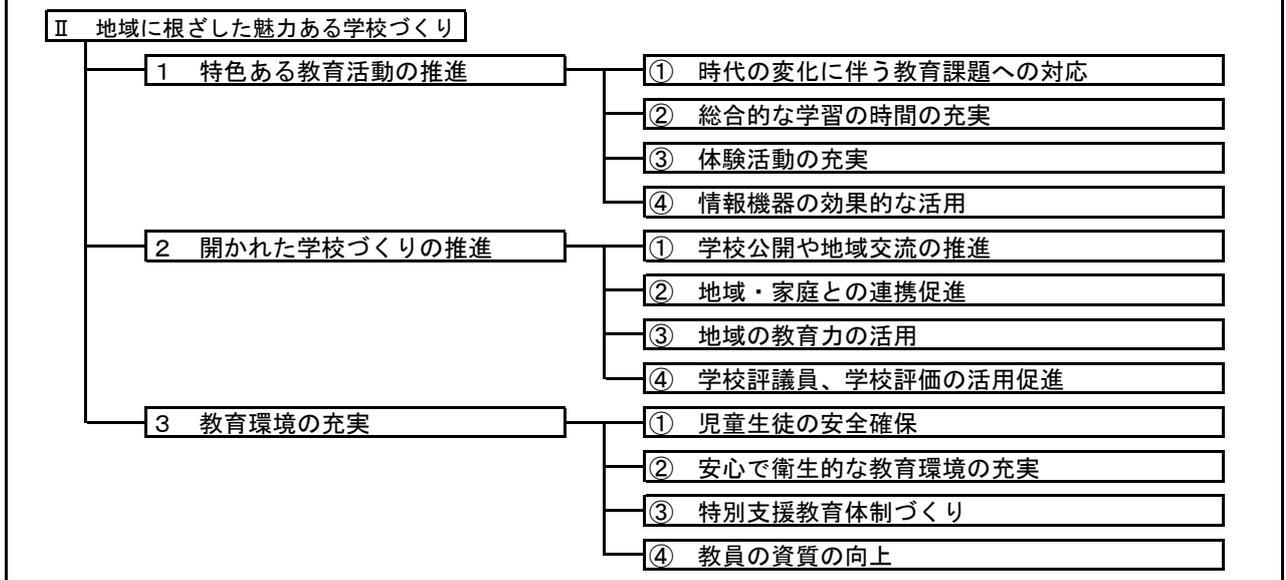
【④ 指導者・指導技術の充実】

体育教科や部活動等への外部指導者の活用、栄養教諭による食育指導など専門的な指導により、児童・生徒の健康及び体力づくりの充実を図った。

【外部指導者の活用事例】

小学校スキー授業におけるスキー指導
中学校保健体育における柔道の指導

基本目標	第5章 豊かな個性と人間性を育むまち	市民満足度（章単位）	満足・普通 78.0%	不満 15.6%
政策	第2節 学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	市民ニーズ（政策）	8/18	
施策	Ⅱ 地域に根ざした魅力ある学校づくり			
体系図				



【目標】

地域に根ざした特色ある教育活動を進め、開かれた学校づくりに努める。

市民満足度（施策単位）		市民ニーズ（章内）
満足・普通	不満	3/7
81.4%	15.0%	

●目標への接近度を計る指標

目標への接近度を計る指標等	単位	基準値H16	実績値H17	実績値H18	実績値H19	実績値H20	実績値H21	実績値H22	実績値H23	実績値H24	実績値H25	実績値H26	実績値H27	目標値H27
指標1 一斉公開参観日の参加率	%	21.0	0.0	18.0	29.6	26.9	13.0	22.7	27.9	30.7	25.9	40.0	38.8	33.0
指標2 学校開放事業の利用者数	人	34,983	37,167	35,534	32,336	28,633	25,248	26,505	24,845	26,715	24,296	25,414	24,370	35,000
指標3 地域との交流件数	回	36	36	37	37	34	14	25	15	30	21	42	42	40

●目標到達に向けた取組及び成果

特色ある教育活動のため、外国人英語指導助手の活用や登別温泉への入浴体験など総合的な学習の充実、情報通信機器の整備・運用による情報通信教育の充実などに努め、地域社会や家庭と学校の連携を促進するなど開かれた学校づくりを推進した。また、教育環境の充実のため、教育研究会の運営を支援し、教員の資質向上に努めたほか、学校及び周辺の整備、遠距離通学する児童へのバス運行や補助、障がいを持つ児童生徒の能力と個性を最大限伸ばすため、特別支援教育指導内容の研究と実践を図る協議会へ補助を行った。

学校開放事業の利用者数は減少傾向にあるものの、一斉公開参観日の参加率及び地域との交流件数は目標値を達成しており、取組の成果が見られる。

●まちづくり意識調査からの分析

総体的には「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が、「不満」「やや不満」と回答した方の割合を上回っている。

性別では男性のほうが女性に比べ「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が高く、年代別ではどの年代でも「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合は8割前後であり、多くの方が概ね満足していると考えられる。

●施策の基本的な方向

1 <特色ある教育活動の推進>

●主要な施策

【① 時代の変化に伴う教育課題への対応】

英語を使ったコミュニケーション能力の育成を図ることにより、国際化社会で活躍することができる人材育成を図った。また、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度の育成を図った。

【外国人英語指導助手招聘人数】

平成27年度まで 22人

【② 総合的な学習の時間の充実】

外国人英語指導助手（ALT）の活用による外国語教育の充実や、地域の特性を活かした特色ある教育を通して、総合的な学習の時間の充実を図った。

【特色ある学校づくり推進経費による実施例】

登別温泉入浴体験・野外体験学習・職場体験学習・生活科の授業など

【③ 体験活動の充実】

教室では学ぶことができない、地域の自然を活かした学習活動・体験学習を実施することにより、豊かな人間性を育むとともに、児童生徒の社会性・自主性、地域への愛着を育てた。

【自然体験学習実施実績】

- ・平成27年度 20クラス578人
- ・平成26年度 21クラス644人
- ・平成25年度 17クラス516人

【④ 情報機器の効果的な活用】

各種教育活動においてパソコン等の情報通信機器を積極的に活用することにより、情報教育の推進及び校務の効率化を図った。また、学校図書システムを活用することで、児童生徒が自分たちで図書の貸し出し業務を行うことができるようになり、学校図書館の運営に参画することが可能となった。

【情報機器の活用事例】

教科：社会や理科等で必要な情報収集
 教科以外：特別活動や総合的な学習の時間、外国語活動で必要な情報収集、クラブ活動や部活動での活用

●施策の基本的な方向

2<開かれた学校づくりの推進>

●主要な施策

【① 学校公開や地域交流の推進】

「北海道教育の日」と連動させ、登別市の学校や地域で行われている教育の課題に対応した各種事業や教育活動を「教育ふれあいウィーク」及び「教育ふれあいウィーク関連事業」として実施するとともに、広報紙掲載やチラシ・ポスターを配布し、教育活動の積極的な情報発信を図った。

【教育ふれあいウィークプログラム】

- ・一斉学校公開日「ふれあいDAY」
- ・特別支援教育懇談会

【教育ふれあいウィーク関連事業】

- ・各中学校吹奏楽部定期演奏会
- ・特別支援学級作品展

【② 地域・家庭との連携促進】

家庭や地域社会との連携協力により導入した学校評議員制度を活用し、学校に対する評価・助言などを行った。

また、文部科学省より、地域全体で子どもを育むことができる学校づくりを推進する方向性が示されたことを受け、学校評議員制度から学校運営協議会（コミュニティスクール）への移行を進めた。

【国の教育改革】

- ・平成12年4月：学校評議員制度導入
- ・平成16年9月：学校運営協議会制度導入

【登別市の取組】

- ・平成13年度：学校評議員制度導入
- ・平成24年度：コミュニティスクールの設置検討
- ・平成26年度：コミュニティスクール設置

【③ 地域の教育力の活用】

各種教育活動の支援が図られ、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間が増えるなど、学校や地域の教育活動のさらなる充実が促進された。

【学校ボランティアの活用事例】

- ・農業体験、自然体験活動の指導
- ・各種教育活動（長期休業中の学習サポート、世代間交流、スポーツ大会、陶芸教室等）の支援
- ・校舎内外（花壇、農園等）の環境整備
- ・下校パトロールの実施
- ・図書ボランティア



【④ 学校評議員、学校評価の活用促進】

各学校における教育活動などの学校運営の状況について自ら評価を行い、評価結果に基づいて学校運営や指導方法等の改善を図ることができた。また、自己評価だけではなく、学校評議員等による外部評価を実施することで、学校経営における自信と反省が生まれ、より望ましい「開かれた学校づくり」が促進された。

【学校評議員参集回数】

- ・平成27年度 42回
- ・平成26年度 36回
- ・平成25年度 32回

●施策の基本的な方向

3<教育環境の充実>

●主要な施策

【① 児童生徒の安全確保】

市内小中学校に公共交通機関を利用して通学する児童生徒へ補助金を交付したほか、遠隔地に居住する児童生徒の通学の安全を確保するため、送迎用のバスを運行した。

【児童生徒遠距離通学費補助人数】

- ・平成27年度 78人
- ・平成26年度 92人
- ・平成25年度 65人

【スクールバス運行事業対象者数】

- ・平成27年度 34人
- ・平成26年度 37人
- ・平成25年度 47人

【② 安心で衛生的な教育環境の充実】

薬剤師による学校環境検査を定期的を実施し、衛生的な教育環境の整備に努めた。

【薬剤師による学校環境検査】

- ・平成27年度 7件
- ・平成26年度 7件
- ・平成25年度 7件

【③ 特別支援教育体制づくり】

心身に障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえて、特別支援教育に関する環境整備や補助等の支援を行うことにより、自立や社会参加に向けて必要な支援を行い、児童生徒の自立や社会参加の促進に寄与した。

【特別支援教育就学奨励費】

- ・平成27年度 小学校34人 中学校15人
- ・平成26年度 小学校32人 中学校18人
- ・平成25年度 小学校28人 中学校14人

【④ 教員の資質の向上】

教職員の知識、指導力等の資質向上を図ることを通じ、市全体の教育レベルの向上、学校教育の充実を図った。

【登別市教育研究会活動実績】

- ・平成27年度 5回
- ・平成26年度 5回
- ・平成25年度 5回

基本目標	第5章 豊かな個性と人間性を育むまち	市民満足度（章単位）	満足・普通 78.0%	不満 15.6%
政策	第2節 学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	市民ニーズ（政策）	8/18	
施策	Ⅲ 青少年が健やかに地域で育つ環境づくり			
体系図	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">Ⅲ 青少年が健やかに地域で育つ環境づくり</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">1 地域との連携による青少年の健全育成</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">① 青少年の健全育成</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">② 非行などの未然防止</div> </div> </div>			

【目標】

青少年の非行の未然防止に努める。

市民満足度（施策単位）		市民ニーズ（章内）
満足・普通	不満	2/7
79.9%	16.7%	

●目標への接近度を計る指標

目標への接近度を計る指標等	単位	基準値H16	実績値H17	実績値H18	実績値H19	実績値H20	実績値H21	実績値H22	実績値H23	実績値H24	実績値H25	実績値H26	実績値H27	目標値H27
指標1 児童・生徒のボランティア活動参加率	%	3.0	3.0	3.2	3.3	3.3	数値の根拠が不明確であるため具体的な取組みを指標とした							-
指標2 児童・生徒のボランティア活動（リングブル及びペットボトルキャップ集めに取り組む学校）	校	-	-	-	-	-	10	10	10	9	8	8	8	12
指標3 児童・生徒の街頭補導（指導）件数	件	2,011	1,037	880	698	405	328	231	170	101	133	231	153	300

●目標到達に向けた取組及び成果

青少年の健全育成のため、少年の主張大会やこいのぼりマラソンなど青少年の活動支援に努め、非行などを未然に防止するため、青少年センターによる相談や街頭指導を実施した。また、青少年をとりまく現状の課題について関係機関と共有するため、青少年問題協議会を開催した。
児童・生徒の街頭補導件数は目標値を達成しており、取組の成果が見られる。

●まちづくり意識調査からの分析

総体的には「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が、「不満」「やや不満」と回答した方の割合を上回っている。
性別では男性のほうが女性に比べ「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合がやや高く、年代別ではどの年代でも「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が7割を超えており、多くの方が概ね満足していると考えられる。

●施策の基本的な方向

1 <地域との連携による青少年の健全育成>

●主要な施策

【① 青少年の健全育成】

学校支援地域本部を設置し、各中学校区にコーディネーターを配置したことにより、地域住民の学校支援事業への参画が促進され、地域の特色を生かした交流事業の充実を図った。

【学校支援地域本部事業】

ふれあい農園、音楽を楽しむ会、土曜寺子屋、さけの稚魚放流、世代間交流など。

平成27年度までの開催回数 297回



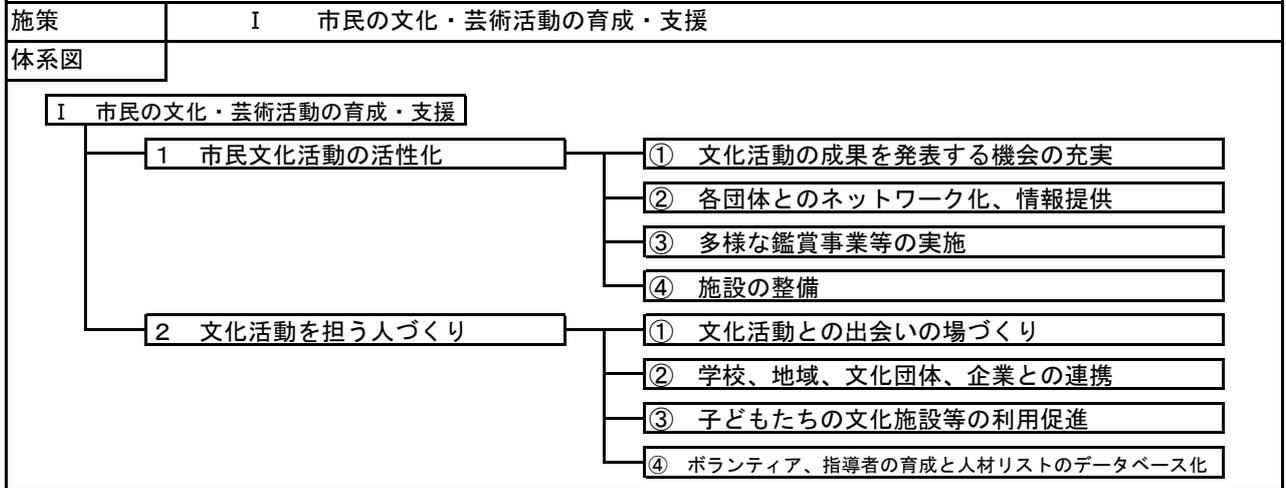
【② 非行などの未然防止】

青少年センターを中心とした巡回や関係機関との連携を強化することにより、児童・生徒への街頭補導（指導）件数を大幅に減少させた。

【街頭補導（指導）件数】

平成27年度まで 3,330件

基本目標	第5章 豊かな個性と人間性を育むまち	市民満足度（章単位）	満足・普通 78.0%	不満 15.6%
政策	第3節 市民の個性ある文化活動と文化を育む	市民ニーズ（政策）	9/18	
成果	市民文化祭などを企画する登別市文化協会等への活動支援するとともに、児童生徒が各種大会に出席する際の経費の一部補助や3市合同で舞台芸術鑑賞の機会を提供し、文化活動を担う人づくりや文化振興に寄与した。			



【目標】

文化情報の収集と周知に努めるとともに、文化の創造的な活動を活性化するため、優れた芸術文化の鑑賞機会の提供に努める。

市民満足度（施策単位）		市民ニーズ（章内）
満足・普通	不満	4/7
75.1%	21.7%	

●目標への接近度を計る指標

目標への接近度を計る指標等	単位	基準値H16	実績値H17	実績値H18	実績値H19	実績値H20	実績値H21	実績値H22	実績値H23	実績値H24	実績値H25	実績値H26	実績値H27	目標値H27
指標1 文化振興事業への参加者数	人	2,845	2,988	2,484	1,738	2,045	1,996	2,218	1,494	2,028	2,215	1,532	1,470	3,000
指標2 文化に関心がある市民の割合	%	54.8	-	51.0	-	44.9	-	-	49.4	-	-	46.9	47.1	65.0
指標3 文化・芸術団体やサークル等への加入率	%	18.2	-	9.6	-	8.5	-	-	9.0	-	-	7.1	11.4	25.0

●目標到達に向けた取組及び成果

文化、芸術の拠点施設として市民会館を整備したほか、文化活動の活性化のため、市民文化祭などを企画する登別市文化協会への活動支援や中学校音楽祭の開催に努めた。また、文化活動を担う人づくりを行うため、児童生徒が各種大会に出席する際の経費の一部補助や3市合同で舞台芸術鑑賞の機会を提供した。
すべての指標において、実績値が下降傾向にあることから、今後も文化情報の周知に努め、文化の創造的な活動の活性化に努める。

●まちづくり意識調査からの分析

総体的には「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が、「不満」「やや不満」と回答した方の割合を上回っている。
性別では男女間において大差はなく、年代別ではどの年代でも「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が約7～8割であり、多くの方が概ね満足していると考えられる。

●施策の基本的な方向

1 <市民文化活動の活性化>

●主要な施策

【① 文化活動の成果を発表する機会の充実】

市民が自主的な文化活動の成果を発表する機会を提供したほか、発表するための支援を行った。

【文化活動の成果を発表する機会】

平成27年度まで

- ・市民文化祭 10回、文化協会機関紙・文芸誌の発行 10回
- ・中学校音楽祭 6回



【② 各団体とのネットワーク化、情報提供】

個々の文化団体・サークルで構成された登別市文化協会を助成することにより、市内の文化団体のネットワーク化を図り、文化情報を広く発信した。

【登別市文化協会加盟数】

平成27年度現在 29団体、約1,200名

【③ 多様な鑑賞事業等の実施】

一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団の事業経費を一部補助することにより、市民のニーズに沿った質の高い鑑賞事業を実施し、多数の来場者を得た。

【文化振興事業への参加者数】

平成27年度まで 19,220人

【④ 施設の整備】

市民会館等の市民文化活動の拠点となる施設を、市民が安心して利用できるように計画的に整備を行った。

【市民会館利用者数】

平成27年度まで 812,936人



●施策の基本的な方向

2<文化活動を担う人づくり>

●主要な施策

【① 文化活動との出会いの場づくり】

全道・全国大会出場により、他地域の児童生徒との交流の場づくりや文化活動の担い手づくりに寄与した。

【児童・生徒文化振興助成金申請数】

平成27年度まで 101件

【② 学校、地域、文化団体、企業との連携】

市民ニーズを捉え3市合同で質の高い文化事業を実施してきたが、平成25年度から西いぶり定住自立圏文化事業として3市3町で実施することにより、広く周知し参加(来場)を促すことで市の文化力向上に寄与した。

【西いぶり定住自立圏文化事業参加者数】

平成27年度まで 6,666人

【③ 子どもたちの文化施設等の利用促進】

経費の一部を助成することで児童生徒が全道、全国大会に出場する機会が増え、大会に向けての練習の場として学校以外の文化施設の利用が促進された。

【児童・生徒文化振興助成金申請数】

平成27年度まで 101件

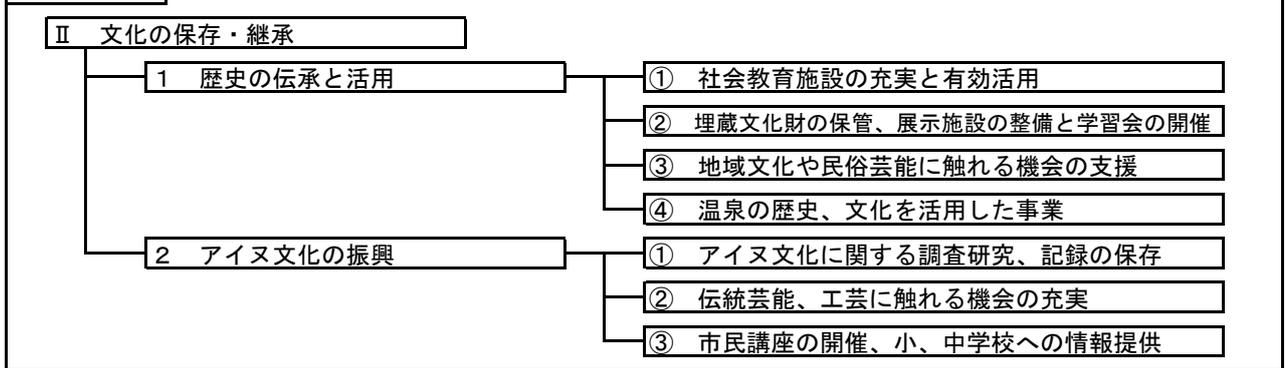
【④ ボランティア、指導者の育成と人材リストのデータベース化】

生涯学習活動を行う際の一助となるよう、市内公共施設等に、生涯学習指導者の情報等をまとめた「生涯学習人材バンク」を設置した。登録した方々の学習成果を活かす機会となり、生涯学習指導者の資質の向上が図られた。

【生涯学習人材バンク登録数】

平成27年度 187件

基本目標	第5章 豊かな個性と人間性を育むまち	市民満足度（章単位）	満足・普通 78.0%	不満 15.6%
政策	第3節 市民の個性ある文化活動と文化を育む	市民ニーズ（政策）	9/18	
施策	Ⅱ 文化の保存・継承			
体系図				



【目標】

文化財や郷土芸能などの文化遺産の積極的な保護と活用に努める。

市民満足度（施策単位）	市民ニーズ（章内）
満足・普通	不満
82.1%	14.5%
7/7	

●目標への接近度を計る指標

目標への接近度を計る指標等	単位	基準値H16	実績値H17	実績値H18	実績値H19	実績値H20	実績値H21	実績値H22	実績値H23	実績値H24	実績値H25	実績値H26	実績値H27	目標値H27
指標1 歴史や文化講座の参加者数	人	1,047	718	954	1,203	1,132	1,021	1,237	1,035	1,287	1,023	1,086	1,055	1,400
指標2 歴史文化施設（郷土資料館・埋蔵文化施設等）入館者数	人	3,400	2,769	3,540	4,012	4,204	4,562	5,491	4,926	4,975	5,108	5,490	5,016	4,500

●目標到達に向けた取組及び成果

歴史の伝承と活用を図るため、登別市の過去を経験・記憶する方に聞き取り調査を行い、その内容を明文化して後世に伝える「市民が記憶する歴史収集事業」や郷土資料館、文化伝承館の適切な運営管理、指定文化財等の周知、文化財の保護活動、埋蔵文化財に関する体験学習会の開催などに努めた。また、アイヌ文化の振興のため、アイヌ伝承文化の理解を深めるための講座の開催や文化の保存、伝承、普及、発展を図り、北海道アイヌ協会登別支部への事業支援を行うなどアイヌ文化の振興に努めた。

歴史や文化講座の参加者数は減少傾向にあるものの、歴史文化施設入館者数については、目標値を達成している。

●まちづくり意識調査からの分析

総体的には「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が、「不満」「やや不満」と回答した方の割合を上回っている。

性別では女性のほうが男性に比べ「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が高く、年代別ではどの年代でも「満足」「やや満足」「普通」の割合が約8～9割であり、多くの方が概ね満足していると考えられる。

●施策の基本的な方向

1＜歴史の伝承と活用＞

●主要な施策

【① 社会教育施設の充実と有効活用】

郷土資料館では常設展示だけでなく特別展及び企画展の実施により、市民が郷土の歴史の理解を深める機会を充実させた。文化伝承館では年20回程度の体験学習を企画し市民が伝統や文化に親しむ機会を提供した。

【郷土資料館特別展・企画展回数】
平成27年度まで 37回



【② 埋蔵文化財の保管、展示施設の整備と学習会の開催】

埋蔵文化財を適切に保管し、展示、講座などの普及啓発を行った。また、貸出用の縄文トランクを作成し、普及に努めたほか、開発地における発掘調査を実施し、市内の遺跡情報の蓄積に努めた。

【文化財保護の取組】

- ・市内小学校を中心とした縄文出前講座の開催（平成17年～）
- ・市外を中心とした縄文トランクの貸出（平成23年～）
- ・新たな遺跡の発見と登載（7か所 計33か所）
- ・遺跡の発掘調査（平成19年 富岸川右岸遺跡）
- ・市内出土資料の調査（川上A遺跡土偶、アフルパル）



【③ 地域文化や民俗芸能に触れる機会の支援】

市民に地域の伝統芸能文化を学ぶ機会を提供するとともに、子どもたちが実際に歴史資料に触れ、また見る機会を提供し地域文化の伝承に寄与した。

【主な実施事業】

- ・ 縄文出前講座等の普及事業
- ・ アイヌ文化講座
- ・ 古文書教室



【④ 温泉の歴史、文化を活用した事業】

温泉に関する歴史的資料及び情報を調査し、資料の収集・保管を図るとともに、郷土資料館では常設展示を行い、温泉の情報を発信した。

【温泉関係資料の収集・保管】

平成27年度末現在 約2,400点



● 施策の基本的な方向

2 <アイヌ文化の振興>

● 主要な施策

【① アイヌ文化に関する調査研究、記録の保存】

郷土資料館での常設展示だけでなく、北海道とも連携してこの地のアイヌの歴史文化の掘り起しに努めたほか、調査研究を行い、その研究成果の蓄積に努めた。

【主な取組】

- ・ 研究論文の執筆
- ・ アイヌ関係資料の調査・研究
- ・ アイヌ関係資料の常設展示
- ・ アイヌ関係資料の収集・保管



【② 伝統芸能、工芸に触れる機会の充実】

アイヌ民族への理解と関心を深めるため、アイヌ伝統の材料や工法を使った作品を作成するアイヌ文化講座を開催した。

公益社団法人北海道アイヌ協会が主催するアイヌ民族文化祭に補助金を交付し、同祭を通してアイヌ民族の伝統的な芸能や工芸などを紹介し、アイヌの伝統文化の保存と保護思想の普及を図った。

【アイヌ文化講座】

平成27年度まで 開催回数 80回、参加者数 延べ1,022人

【③ 市民講座の開催、小、中学校への情報提供】

アイヌ民族の文化と歴史を学ぶ講座を実施したほか、登別市に縁のある人物に焦点を当てた記念フォーラムの開催を助成し、アイヌ文化の普及を図った。

【主な取組】

- ・ 知里真志保生誕100年記念事業を助成（平成21年度）
- ・ アイヌ文化講座（平成22年度から開催）

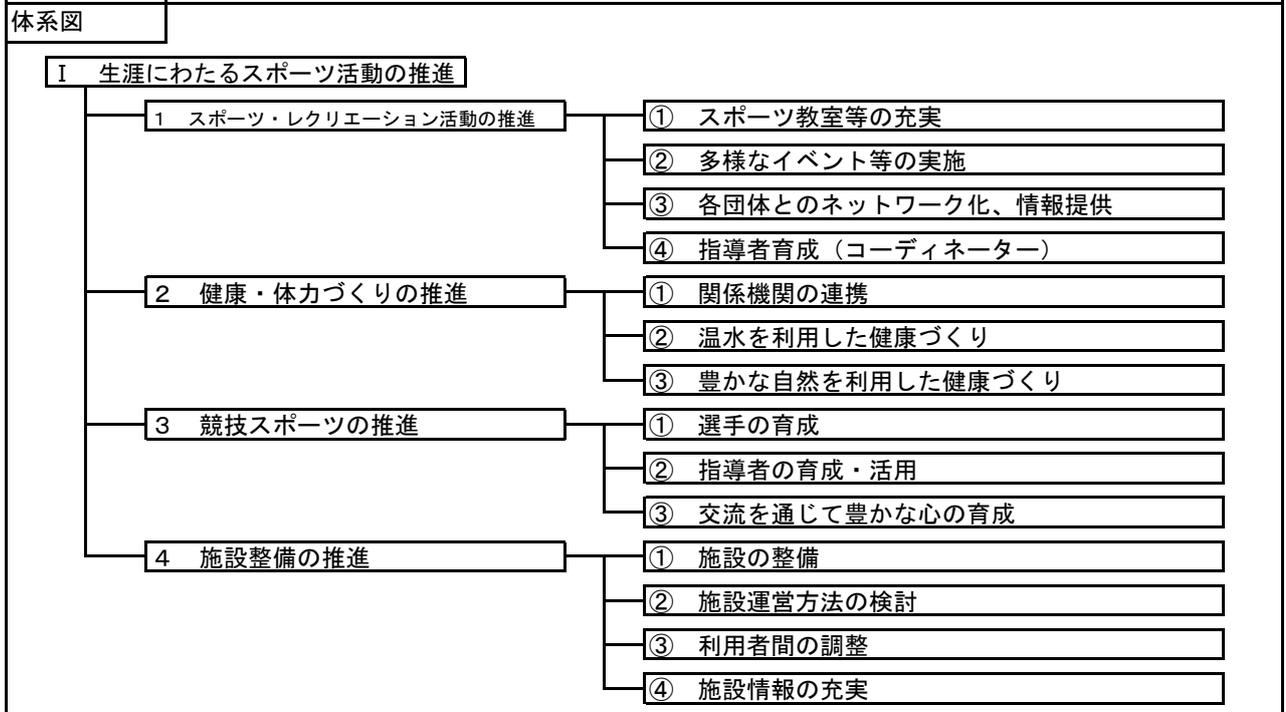


基本目標	第5章 豊かな個性と人間性を育むまち	市民満足度（章単位）	満足・普通 78.0%	不満 15.6%
政策	第4節 スポーツを通じて健康で活力のある生活をめざす	市民ニーズ（政策）	9/18	

成果

スポーツ・レクリエーション活動やきらり健康ふれあいウォーキングなど健康・体力づくりの推進に努めるとともに、競技スポーツの推進のため、スポーツ推進委員による市民スポーツイベントの参加や市内のスポーツ少年団等の全国・全道大会への参加に係る費用の一部助成を行うなど、スポーツを通じた市民の健康づくりを進めた。

施策 I 生涯にわたるスポーツ活動の推進



【目標】

体力づくりを推進し、健康で活力ある生活を目指す。

市民満足度（施策単位）		市民ニーズ（章内）
満足・普通	不満	6/7
78.7%	18.2%	

●目標への接近度を計る指標

目標への接近度を計る指標等	単位	基準値H16	実績値H17	実績値H18	実績値H19	実績値H20	実績値H21	実績値H22	実績値H23	実績値H24	実績値H25	実績値H26	実績値H27	目標値H27
指標1 月に1回以上、スポーツ（ウォーキングを含む）をしている人の割合	%	39.0	-	53.6	-	53.8	-	-	56.0	-	-	53.5	53.9	60.0
指標2 市民プールの利用者数	人	116,000	118,726	117,792	114,219	118,850	114,372	115,263	117,349	113,987	116,087	118,028	118,687	120,000

●目標到達に向けた取組及び成果

市民プールなど各種スポーツ施設の管理運営や団体が行うスポーツ振興事業等への支援を行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動やきらり健康ふれあいウォーキングなど健康・体力づくりの推進に努めた。また、競技スポーツの推進のため、スポーツ推進委員による市民スポーツイベントの参加や市内のスポーツ少年団や児童生徒の部活動における全国・全道大会への参加に係る費用の一部助成を行った。

月に1回以上、スポーツをしている人の割合や市民プールの利用者数については、目標値には未達であるものの順調に推移しており、取組の成果が見られる。

●まちづくり意識調査からの分析

総体的には「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が、「不満」「やや不満」と回答した方の割合を上回っている。

性別では女性のほうが男性に比べ「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が高く、年代別ではどの年代でも「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合が7割を超えていることから、多くの方が概ね満足していると考えられる。

●施策の基本的な方向

1 <スポーツ・レクリエーション活動の推進>

●主要な施策

【① スポーツ教室等の充実】

一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団のスポーツ振興事業実施に係る経費の一部を助成することにより、スポーツ教室やスポーツ大会の拡充を図り、市民の健康増進・技術向上に努めた。

【主なスポーツ教室開催事業】

- ・初心者卓球教室
- ・初心者スノーボード

【主なスポーツ大会開催事業】

- ・市民ソフトボール大会
- ・市民スポンジテニス大会



【② 多様なイベント等の実施】

登別こいのぼりマラソンの開催を支援することにより、親子のふれあい、子どもたちの健全育成、市民のスポーツ振興と健康増進を図った。

また、平成26年7月より、青少年会館の18歳以上の利用を有料とすることにより、施設の目的に沿った利用の推進と公平性を確保し、レクリエーション活動の場として市民に提供した。

【登別こいのぼりマラソン参加者数】

平成27年度まで 1, 171人
※実行委員会移行後実績（平成24年度から）



【③ 各団体とのネットワーク化、情報提供】

総合型地域スポーツクラブの設立や運営を支援した。また、登別市スポーツ推進委員会や登別市体育協会、登別市文化・スポーツ振興財団等との情報共有により、各団体からの要望の把握に努めたほか、団体間の連携促進や各種スポーツ研修会等の参加促進を図った。

【④ 指導者育成（コーディネーター）】

登別市体育協会の活動を助成することにより、指導者の技能・資質向上に関する研修会等の情報提供や参加支援が図られ、指導者の資質向上に努めることができた。

●施策の基本的な方向

2 <健康・体力づくりの推進>

●主要な施策

【① 関係機関の連携】

スポーツ推進委員と連携・役割分担をしながら、市民ラジオ体操会を開催し、市民の健康・体力づくりの充実を図った。

【市民ラジオ体操会参加者数】

平成27年度まで 2, 353人



【② 温水を利用した健康づくり】

指定管理者（一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団）による水中運動教室等、温水プールを利用した健康・体力づくりの推進に努めた。また、プールバスバック事業により、市内利用者の一層の拡充を図った。

【市民プールの利用者数】

平成27年度まで 1, 164, 634人



【③ 豊かな自然を利用した健康づくり】

市内のコースを利用したウォーキング講習会の実施により、生涯スポーツの振興及び市民の健康増進を図った。また、各地区のコースを掲載したマップの作成により、市民が気軽にウォーキングをすることができる環境づくりに努めた。

【きらり健康ふれあいウォーキング】

平成22年度から平成24年度まで
講習会参加者数 411人
ウォーキングマップの作成 9種類



●施策の基本的な方向

3 <競技スポーツの推進>

●主要な施策

【① 選手の育成】

登別市スポーツ少年団本部を助成することにより、各スポーツ少年団に対する活動を支援し、団員の競技力向上に努めた。また、団員のリーダーシップ能力の育成に関する研修会等の情報提供や参加支援を図り、競技者の技能・資質の向上に努めた。

【② 指導者の育成・活用】

スポーツ推進委員及び登別市スポーツ少年団本部のスポーツ指導者の資質向上のため、各団体が主催する研修や養成講座の周知・参加を促進し、指導者人口の拡大や指導力の向上に寄与した。

【③ 交流を通じて豊かな心の育成】

交流事業の開催や全道・全国大会への出場経費の一部を助成することにより、市内・管内チームとの交流や、高いレベルでの競技力向上に寄与した。

【6市町スポーツ交流会事業参加者数】

(陸上競技大会)

平成27年度まで 891人

【児童・生徒スポーツ振興助成金申請数】

平成27年度まで 729件



●施策の基本的な方向

4 <施設整備の推進>

●主要な施策

【① 施設の整備】

総合体育館や陸上競技場などの施設改修を行い、魅力あるスポーツ空間の確保に努めた。

【主な体育施設の利用実績】

平成27年度まで

総合体育館 570, 596人

陸上競技場 89, 678人

市民プール 1, 164, 634人

岡志別の森運動公園 330, 596人



【② 施設運営方法の検討】

スポーツ施設の運営について、利用者の意見を聞き適切に運営するとともに、利用者の団体間での調整が図られるよう努めた。

学校の屋内運動場の利用について、運営の効率化を図るため、平成25年度から2校、平成26年度から全校にて利用団体による自主管理を実施した。

【③ 利用者間の調整】

学校の屋内運動場の利用について、利用団体間で公平な調整が図られるよう努めた。



【④ 施設情報の充実】

広報紙や市ホームページ等を活用し、スポーツ施設の情報を適切に提供した。

【主な情報提供】

- ・市民プールバスパックの周知
- ・年末年始における各施設の業務案内